

いま、ここにある命

浄慶 葉(滋賀県)

(立命館守山高高等学校一年)

「あなたの大切な人は誰ですか？あなたのことを大切に想っている人は誰ですか？」

これは中学生の私が今全ての大人に聞きたいこと、思い出してほしいことだ。健康でいる、それが何よりも大切であるということを私達はすぐに忘れてしま

うから。私の父と母は、一年に一度必ず人間ドックを受けている。後日その結果が出ると、「〇〇の数値が高い」だの「体重が増えた」だの「視力が下がった」だのと、笑いながらお互いの結果を見せ合っている。しかし、前回受けた人間ドックは、いつもとは違った。父の腎臓癌が発見されたのだ。

癌、という響きの重さと恐ろしさに不安ばかりが募り、悪い想像を膨らませて情緒が不安定になっていた私に、祖母が言った。

「病気になるのは仕方ないこと。見つけてその都度治していくことが大事。癌になってしまったことに落ち込むよりも、人間ドックで癌を発見してもらえたことを今はまずありがたいことだと理解しなさい。」

そして、こう続けた。

「実は私も、あなたのお母さんと同じ位の年齢で乳癌になったの。それも癌の進行レベルが4段階のうちの3だった。その時もたまたま受けた人間ドックで発見してもらったの。今、健康でこうしていられるのはあの時の人間ドックのおかげなんだよ。」

祖母は高齢にも関わらず毎日トレーニングジムに通い、行動的で常にチャレンジ精神旺盛、とても元気な人だ。まさかそんな大病を患っていた過去があるとは思ってもいなかった。当時の祖母の癌は今回発見された父の癌よりも進行しており、周りのリンパ節にも転移していたため胸部のまわりまで大きく切除することになったそうだ。

人間ドックで腎臓癌が見つかった父はすぐに病院で精密検査を受け、手術を受けることが出来た。手術は無事に成功し、そのおかげで今現在ほぼ以前と同じ様な生活を送ることができている。父を助けてくれた全ての人達に、感謝の気持ちでいっぱいだ。父の癌は、発見された時点では全く自覚症状がなかった。もしもあの時父が人間ドックを受けていなければ、気が付かないまま癌がどんどん進行し、間違いなくかなり深刻な事態になっていたことであろう。

今まで自分の健康管理に無頓着だった父は、人間ドックでの癌の発見とその手術をきっかけに自分の体を意識する様になった。今は、スポーツジムに通い、食事にも気を使い、とても健康的な毎日を送っている。定期的に通院をして、病後の検査と健康指導も受けている。

先日、父の地元の高級生が亡くなった。その知らせを受けた父は、真っ青な顔をして喪服に着替えお葬式に向かった。死因は父と同じ腎臓癌。癌が発見された時にはすでにかなり進行しており全身に転移していたそうだ。彼には私と同世代の子供が一人いると聞き、胸が詰まった。「もともと早く癌を発見することが出来ていれば…」と、ご家族は皆とても辛く苦しい気持ちでいることだろう。そして友人の死因が、自分が治療したばかりの腎臓癌であったことも、父にとってはなおさらショックで辛いことだっただろう。

大半の病気は、自覚症状が出る頃にはすでにかなり進行していることが多い。では、どうすればそうなる前に病気を発見することができるのか。それには検査を定期的に行うことが最善である、と中学生の私でもわかる。大人はそれをもっと理解しているはずだ。しかし、忙しさを理由に検査を受けない人や自分は大丈夫だろうと病気を他人事だと思っている人がたくさんいると思う。最近では人間ドックを受けることで新型コロナウイルスの感染リスクが高まるのではないかとという不安から検査を控えている人も多いと聞く。それでは本末転倒だ。検査を後に伸ばし伸ばしにすることで、取り返しがつかない程に病気が進行し、自分自身や自分の大切な人、自分を大切に想ってくれている人を悲しませることになるかもしれない。そのことを、全ての忙しい大人達にどうか想像をしてもらいたい。

「人間ドック、今年も予約して受けてくるね。」

今年も父と母は、当たり前前のごとくして人間ドックを受けに行く。父や母本人のために、そして私達家族のために。「病気になるのは仕方ないこと、早く見つけて治していく。」いつもあの時の祖母の言葉が頭に浮かぶ。父も祖母も、人間ドックで病気を発見してもらい今生きている、という事実がここにある。

私も、大人になったら父と母のように毎年必ず人間ドックを受けに行こう。自分自身のために、そして私にとって大切な人達のために。